

平成 29 年 12 月月例記者会見

会見記録

1. 記者会見

【 説明 】

〔がんばる鹿ノ台 4 団体が受賞〕

市長 私からは 1 件だけでございますが、鹿ノ台の地域がにいろいろとコミュニティの活動を熱心にやっただいております。昔から続けていただいているものと、比較的最近のものもございますけれども、この度 4 つの活動がそれぞれ表彰を受けたということで、12 月 25 日に各団体さん同時に市役所にお越しいただきまして、受賞のご報告をいただいたり、その場で意見交換を少しさせていただいたりしようと思っております。4 団体の活動につきまして、簡単に申し上げたいと思います。

一つめが「鹿ノ台いきいき街づくり会」というものでございまして、比較的最近の平成 26 年 4 月からスタートして活動でございますが、サロンとかイベントなどの交流活動と、鹿ノ台も非常に高齢化が今進んでおり、高齢化率が 39.8%ということで、一人暮らしの世帯も多いということで、移動支援を地域で自発的にやっただいてるということで。厚生労働省の老健局長表彰を受けておられます。具体的な活動は、百歳サロンというようなサロンなんですけども、サロン自体はいろいろな生駒市内でも活動はしていただいておりますが、ここは地域柄、奈良先端大とも近いということもございまして、例えば IT を活用して一人暮らしの高齢者の方の見守りが出来ないかとか、というような話を直接、奈良先端大と話をしているというところでは非常に特筆すべきものかなと思ったりはしております。実際に書いておりますように奈良先端大の先生がそういうお話をこのサロンでされたりというようなこともございます。あともう一つ面白いのは、移動送迎支援ということで、鹿ノ台の足腰不自由な方の送迎を地域で支え合いをしているということでございます。これが 1 点目です。

2 点目は、鹿ノ台北の老人クラブなんですけども、ここに付きましては会員数を 3 年間で 3 倍以上にしたということでございます。全国老人クラブ連合会会長表彰を受けておられます。今、老人クラブに入られる方が全体的に見ると減少傾向で、いろいろなサークルとかクラブとかが多様化してる中で老人クラブに入るという方が減っているというのが実情でございますけども、この鹿ノ台北につきましては様々な活動を通じて会員数を増やしたということで表彰を受けておられます。

3 つめが自主防災会でございますけども、これにつきましては、地区の防災計画を作られたということで、生駒市内では、あすか野と鹿ノ台の 2 ヶ所が地区の防災計画を作っておられます。生駒市の防災計画ももちろんございますけれども、各地域において防災のリスク・リスクの種類等も色々変わってまいりますし、実際に高齢化の進展具合でありますとか様々な状況が違う中で、非常に大変な作業なんですけども、地区で防災計画というようなものを予め定めていただいたり、それを決めていく、考えていく中で自助・共助というようなことを具体的に考えていただくプロセスもすごく重要だと思っておりますが、そういうふうなことを鹿ノ台とあすか野はやっただいてるという事でございます。それが認め

られて今年度の防災功労者の知事表彰を受賞されておられます。

最後でございますが、これはもう長く平成 20 年から始まる ECOKA 委員会でございます。これについては、鹿ノ台の周辺部の景観保全のための緑地整備なんかから始まり、今は中央公園の植栽とか、様々な景観形成、そして緑地の保全というようなものを進めていただいております。東京ドーム 3 個分に当たる緑地を整備しておられて、見ていただければ本当にあそこはすごくきれいになってますし、実際にうっそうとしていたところが今は日の光も入るということで散歩コースなんかになってて、結構色々な方が歩いておられて健康維持だったり、本当に良い場所になっています。これにつきましては、環境省の第 5 回グッドライフアワードというようなものの環境大臣賞の中の地域コミュニティ部門賞を受賞されておられます。

以上でございます。鹿ノ台以外でもやっていただいているところはたくさんあるんですけども、鹿ノ台につきましては今申し上げたような活動が地域の方のご努力で前に進んでいるということでございまして、高齢化していくニュータウンというのは生駒市内でも他にもございますけれども、一つの非常に良い参考というか見本になっていただいているかなと思っております。この度 12 月 25 日の日に意見交換させていただく場を作りたいと思っております。ぜひ、こちらの 25 日の御取材もよろしく願いいたします。

【 質疑応答 】

〔生駒市『公務員セミナー』を開催〕

記者 生駒市公務員セミナーですけど、毎年やってらっしゃることなんですね、おそらく。今年新しいブースのことでとか、これに対する市長の狙い・目的、それから期待といったところをお願いいたします。

市長 去年もやってますし、時期は若干違うかもしれませんが、毎年このくらいの時期にセミナーとしてやっているものでございまして、今回大きく変えるというようなところはございませんけれども、もともと生駒市では単なる一方的な説明会だけではなく、実際に働いている職員が各ブースを作って、実際に手触り感があるというか、現場の苦労とかやりがいみたいなものを職員から話すようなブース形式でやってるところが、非常に大きな他の自治体との違いです。あまりこういうセミナーやってるところ自体あんまり無いんですけど、やってるところも比較的説明会で終わってるところが多いと思うんですが、こういうブース形式でやってるところというのは非常に珍しいと思います。これが 1 つのポイントかと思えます。もう一つは私の講演自体は、これも毎回やってるんですが、質疑応答が基本的には出尽くすまでやるというのがスタイルで、質疑応答で 1 時間半くらいやってる時もあったりとか、とにかく全部質問受けるよってというようなやり方ではやってます。その 2 つは面白いかなと思えます。今年もたくさん来ていただいて、また 3 月に最終的な説明会をやっていきますけども、その前段として、生駒市とか公務員に興味を持ってもらうというような、そういうセミナーですね。採用というよりは公務員に関する仕事の内容に興味を持ってもらうためのセミナーという位置づけなんですけども。ポイントとしては今言ったようなところかと思えます。

これは去年ぐらいにこういうスタイルを確立したので、今年何か大きく変えるということではございません。また同じような形でやっていきたいなと思えます。狙いは、生駒市のことを知っていただいて、生駒市で働くにたる職場なのかというのを、今は我々が受験者から評価される段階だと思ってるので、

採用プロセスが始まりますと我々が受験者の方をいろいろ評価していくプロセスに入りますけど、今は生駒市というのが働いて面白いところなのかとか、成長の機会があるのかとか、そういうのを受験者の方が結構、我々を評価しているような段階でもあると思ってるので、気合を入れて、しっかりとやっていきたいと思います。

記者 公務員セミナー、去年1月。今年度。1月ぐらいでした。年内にやりましたか。

市長 去年も12月、同じぐらいの時期だったと思います。

記者 採用募集のチラシはいつ頃になるんですか。例年…このセミナーには間に合わないんですって。

市担当者 募集のチラシ。

記者 募集のチラシは、このセミナーよりも後なんでした。

市担当者 募集のポスターですね。もうちょっと後です。

記者 例年そうでしたか。セミナーに合わせたチラシではなかったんです。

市担当者 ではないです。

記者 いつ頃ですか。1月・2月。

市長 そうですね、年明けに採用説明会、これは一応公務員セミナーという形になってますので、採用説明会の時期になってきたら、各大学とか予備校とか、もちろん最終説明会でも配るので。年明け比較的早い段階ではポスターも作っていききたいと思います。

記者 ずっと前ですけど、4人でした。5人でした。若い職員が並んだチラシは、確か公務員セミナーの取材に行った時にすでに話題になってた。あの時は早かった。

市長 そうですね。

記者 この若手職員とかぎかつこのところに3年目の方が来られるんですね。

市長 そうですね、今年は3年目で対応します。

【がんばる鹿ノ台 4団体が受賞】

記者 鹿ノ台、せっかく賞の説明されたので、その高齢化率って、これ鹿ノ台だけで39.8%というので、おそらく鹿ノ台と市内の高齢化率も出るんですよ。

市長 出ます、出ます。12月1日現在で出るのかな。正確な数字は。

市担当者 ちょっと調べます。

市長 すみません。合わせて書いておけば良かったんですけど。

記者 これは、何月から。受賞した日付だと11月と12月だけで。

市長 そうですね、連続して大きな表彰が4つ。鹿ノ台に集中したと。

記者 4団体あって、市内で別の団体はこの時期になかったんですか。

市長 何か県知事とか大臣クラスの表彰はなかったと思います。

記者 この訪問する自治連合会は自治会を代表して来るだけで、4団体とは関係ない。

市長 それぞれの活動に、もちろん何かの形で入っておられるとは思いますが、もともと4団体もその自治会やっておられたような方もいらっしゃると思います。鹿ノ台全体でいろんな活動をされてるので、代表して会長・副会長にということだとは思いますが。それらの活動と全然独立して別だとか、全く関与してませんということではないと思います。

市担当者 高齢化率なんですが、12月1日現在で26.89%です。

市長 毎年、0.8%ずつぐらい上がってるんです。

記者 県内では、若い方でしょ。

市長 いやいや、そうなんですけど。伸び率がすさまじく。

記者 鹿ノ台、高いですね。

〔小学生メニューコンテスト 受賞作品を市役所食堂で限定販売〕

記者 別件で子どもたちが考えた朝ごはんメニュー、できたメニューをご覧なつての感想、市長はどれを食べたいか。

市長 私もこの日一緒に食べさせてもらう予定にはなってます。私も行きますので、よろしく取材お願いします。あと、この朝ごはんメニューも毎年審査させていただいているが、年々すごくレベルが上がってるという気がします。本当に朝ごはんだけでこれだけ食べられたら健康にもなる、というぐらい、すごいメニューが出て。実際、最優秀賞をとられた平井さんのメニューというのは審査員の中でも非常に絶賛されてまして、パプリカをくりぬいた中にチキンライスを入れてるといふものなんですけど、とっても見た目も良くて味もすごく上手に作ってました。それは、とても美味しかったです。実際、こういうメニューにする時には若干作りやすさとか、数を作られるとか、そんな制約とかも出てくるので、実際その場で食べてすごく美味しかったというのが、そのままこのメニューになるかというのは、またちょっと別だったりもするんですけど、ここに並んでる4つのメニューは、そういう意味では作りやすさもありますし、見た目、味、非常に美味しかったなあとも感じた次第であります。

今年一つ残念だったのは、男の子が1人も居なかったかな、決勝に。去年は2人ぐらいいて、実際に東小の子が受賞したメニューが給食で出されて一緒にご飯を食べに行っただけなんですけど。今年は決勝に残った6人全員女の子だったので、別に女の子だったらダメというわけではないんですけど、そういう意味では男の子も是非頑張って朝ごはんメニュー作ってくれたらいいなあというふうには思います。

記者 今回、3つのメニューを一つにした定食ということですね。単品で出るわけではなく。

市長 そうですね。去年までは単品とかで出てたんですけど、今回はセットメニューで販売する。栄養とかも考えていただいて、今回この組み合わせでいけるということで、多分セットにさせていただいたんだと思います。20食しかないからすぐ売切れそうな気がします。

〔ビブリオバトル市内中学生大会〕

市長 ビブリオバトルも金曜日にございます。今年は先程、説明もありましたけど、初めて市内全中学校が全て参加して行くということになりました。今までは、何校か参加できない学校があったんですけど、今年も結構ぎりぎりの調整はあったんですけど、全中学校参加してやっていただくということになりましたので、そういう意味では、全中学校揃った初めての中学校大会、第3回目にしてそうになりましたので、よろしくお願ひします。結構、中学生らしい発表もあれば、それこそ大人顔負けの発表もあります。ぜひ、よろしくお願ひします。

2. その他

〔生駒市民パワー〕

記者 7月に設置した生駒市民パワーの今の現状といいますか、発表だと電力供給開始が12月予定と。

市長 はい、公的な施設に対する電力の供給というのは12月から始まっておりまして。それが安定してきたら、事業所さんであったりとか、各世帯への電力供給というのはもちろんあるんですけども、12月から供給はスタートしています。

記者 12月1日から。

市長 12月1日やったと思います。

記者 公共施設が発表では65施設。

市長 発表してる資料に、そう書いてあったらそのはずです。

記者 具体的に言うと、市の公共施設というのはどういうところですか。

市長 その時に、お示してたと思うのですが、ちょっと今、私全部申し上げられないので、環境モデル都市推進課の方に聞いていただければ、すぐに分かると思います。

〔来年度予算〕

記者 そろそろ、来年度の予算の方の要望のとりまとめが出来てきているのかなというふうに思うのですがけれども、状況はどのような感じでしょうか。市長がこれは、というような来年度の目玉施策がございましたら、お願いいたします。

市長 10月・11月に大きな骨子というか、いろんなまだ検討段階というか大きな方向性というのを議論するヒアリングなんかをしておるんですけども、それを経て今具体的な予算要求を各部から出されてきて、総務部長のヒアリングが始まると、そういう段階です。年明けから、私や副市長が入って市長査定が始まるということがございます。今年は、一つはやっぱり財政状況が生駒市とはいえ決して楽観出来ないというような事もありますので、かなり絞るところは絞っていくような形で、それは業務の効率化というか事業の仕分け的な事も合わせて、今年は少し効率化できる場所、見直すべき施策というものがないかというものもきちんとやっていきたいというふうには思って、今まで進めています。というのも、就任してから2年間は、特に職員も含めて、地方創生の時代ですから、基本的には生駒市の地域の課題に対応する新しい取り組みを積極的に出していこうということで、各部各課から出て来た提案というのを比較的前向きに予算に組み込んでいた、そういうステージだったと思うんですけども、比較的そういう意識が職員にも組織にも定着しつつあるところもありますので、少し今年は、そういう流れはもちろん大切にしながらも、少し財政的なところで新しく始めて逆にちょっと成果が出にくいところだとか、ちょっとやり方を変えていかないといけないところを少し見直していくようなことも、3年目に入りますのでやっていこうというふうなことで進めてはいます。また具体的な目玉になるようなものとか、そういうのは10月・11月にやったヒアリングの結果とかもそうですし、実際、市長査定が終わった後にまたいいタイミングでご説明させていただければと思っています。

〔生きいきクーポン券〕

記者 いきいきカードについて、奈良交通のバスカードに変えて換金するという話が議会で出てましたね。あれは、事実として確認してる話なのか、あるいはそういうのを聞き及んでるという噂で聞いている話なのか、どちらなんですか。

市長 そういう話も聞いてましたので、具体的に実態というのをきちんと調べるようにも指示を出し

ています。件数は、もちろんそれ自体 1 件でもあつたらけしからん事ではあるんですけども、件数がどのくらいあるのかとか、件数とか中身ももうちょっと調べて、それ次第ではその制度も少し改善していかないと出てくるかもしれません。

記者 議員とのやり取りであつたけれども、確認のしようがないわけですよね。その場でカードに変えてすぐに換金するなら分かるかもしれないけども、カードに変えて私は。

市長 議員さんもそうおっしゃってましたけど、通常考えて 1 万円の IC カードを買って日を置いてでもですよ、丸々換金する行為というのは普通の人はしないわけです。何の得もないので。例えば、引越すから、もう使わないからというので何千円か分は返すというのはあるかもしれませんが、1 万円の IC カード買ってすぐ換金するなんてもちろんそうでしょうし、しばらく置いて換金するのも 1 万円のカードを丸々換金してくださいというのは、普通に使用する人はそういう行為はしないわけですから、去年との比較など含めて、やり方考えてみたいとも思います。どこまで正確に取れるかは、やってみないとちょっと分からないですけど。

記者 調査は、分からないですけど、それでもし多ければ、その制度の根本的な見方も考えないといけないみたいなニュアンスでおっしゃいましたけども、どこの段階でみたいの、もう来年度は無理でしょうけども、2 年後とか例えば平成 31 年度ぐらいにもう一度見直すとか、そういうのはないんですか。

市長 今のバスカード以外のところも含めて、どういう状況にあるのか、特にバスカードでそのまま換金するみたいなものっていうのは、ちょっと本来の趣旨と相当かけ離れてますので問題性が高いと思いますけども、今の段階で何年後に変えますよというようなこととかというのは、具体的には考えてません。基本的にはやっぱり、まだ始めて半年なので今ある制度を少し色々なご意見もいただけてますから実際に来年度から運用面で変えていく部分というのはすでにありますし、改善していくことでよりいい形で使っていただきたいなあというところが基本ですし、実際に今、使われ方を見ている、回数券になって使いにくいなあという方もいらっしゃいますけど、コンサートの時に使ったり、貸館の時に使ったりというので、比較的いい形で使っている事例とか、喜んでいただいている方もたくさんいらっしゃいますので、何か生きいきクーポンになって全然アカンなという話ばかりが議会では出ますけど、実際私もいろんな方から聞いてますけどいい声も出てますので、すぐにこれを抜本的にやめるとか完全に違う物に作り変えるということは、基本的にその立場に立ってるわけではないです。ただやっぱり、そのバスのカードはちょっと問題も多いなという気もしますので、そこはちょっと実態を可能な限り調べていきたいなとは思っています。

記者 調べるって、どういうやり方でやるかイメージがわからないんですけど、調べるのは調べるということでもいいですね。

市長 はい、調べようと思います。

記者 ICOKA の話が出まして、市長のおっしゃるとおりだと筋通りにいくとね。ただ、その今現在のやり方でいくと 4,500 万円の経費をかけて毎年 2 億 4,000 万円配ってるわけですよね。10 年経つと事務経費だけで 4 億円の事業なんですよ。非常にもったいないということを考えれば、割り切ってコンビニで ICOKA で物を買うのも外出支援だし、子どもや孫に渡すのも生きがい対策とみれば、それも 1 つの考え方としてはありかなという気もしてきて。その、回数券 3 回しか使えませんかと文句を言われながら、ややこしいと市内の業者で買えません、枚方の業者で使えませんかと言われながらやるんだったら、開き直って 1 枚 ICOKA 配りますってやる方がよっぽど事務経費がかからないので。その方がいいかなという

ふうに、ふと思ったりもするんですが。

市長 議会でも出てましたけど、ICOKAにして孫に使いなさいって渡すと何のために税金使ってやってんのかというのが分からない、それは、私はそういう基本的な考え方に立ってます。ICOKA というのは色々始まる前に議論をしましたが、やっぱり、今実際 ICOKA じゃない形で回数券で使う人は使うし、回数券だと使い勝手悪いから駐車場とか、貸館で何かするのに使おうかという形で、今それはそれで工夫してやっていただいているところもありますので、とりあえずは ICOKA というような形では今のところはもちろん考えてませんし、去年、議会で通していただいたはずなんですけど、今、あのような議論が出てくるといっても困惑しているところも正直あるんですけど。枚方の会社でとかっていう話も出てましたけど、もちろん市内の会社で実際に各ご家庭まで運搬していただくところがあればそういうやり方もあるんでしょうけど、なかなかそこまでやっていただけないところもないです。そういうのをいろいろと総合的に考えた上で話でもありますので、少し落ち着いてくればいい形の動きが出てくると思います。逆に今は生きいきクーポン使って自治会で何ぼか集めてこういう使い方が出来ないかとか、みんなの分を集めてバスをちょっと引っ張ってきたりとかするのに足しにできないかとか、一人暮らしの方の買い物支援にこういうのを使えないかとかですね、そういうような提案が逆に出てくるようになってますので、生きいきクーポンを一つの題材にそういうコミュニティ活動とかが進んでいけば、やっぱり十分、今回の制度の主旨に合うかなと思ってます。もう少し、そういう動きを見極めていきたいとは思っています。課題点はよく認識しているつもりなんですけど、さすがにまだ半年なので、もうちょっとやっていきたいと思えます。

記者 元々やめるべきだとは思っているんですけど、首長さんも議員さんも選挙でやられるためにやめられないでしょうから、そうすると、10年で4億5,000万とか4億の経費かけて、それだけで色々な事が出来るかなと思って、私が生駒市民ならもったいないと思うんです。

市長 生駒市民でも本当にそうおっしゃる方と、そうでない方もいらっしゃるのと、後、年齢は引き上げていきますので、事務経費はおっしゃるようにやっぱり掛かるんですけど、コールセンターのところをどういうふうに下げていくのかという議論もまた精査もしていきたいとも思います。ただ、今回から郵送しているので1,000万円とかいう郵送代はどうしてもかかってしまうんですけども、それ以外の事務経費は下げるとか下げたいと思います。後は年齢が2年に1歳ずつ上がっていきますので、実際に配る額としては、今、2億ちょっとだったものが、10年後75歳になるので、そこでも大体2億ちょっとぐらいで、給付する金額自体はそんなに大きくは変わらないという前提で制度設計はしてます。事務経費は確かに上がっているんですけど。

(了)